

A. 日 時 2011 年 5 月 26 日 (金) 17 時 00 分～18 時 00 分

B. 場 所 建築学会会議室

C. 出席者 井上勝夫, 岩本 毅, 岡野利行, 坂本慎一, 佐久間哲哉, 田端 淳, 中澤真司, 濱田幸雄, 平松友孝, 平光厚雄, 宮島 徹, 吉村純一, 横山 栄 (敬称略)  
欠席者 安藤 啓, 大嶋拓也, 羽入敏樹 (敬称略)

D. 提出資料

No.1-0 2010 年度 第 5 回音環境運営委員会議事録 (案)

No.1-1 2011 年度 音環境運営委員会 委員名簿

No.1-2 2011 年度 第 1 回音環境運営委員会 議事次第

E. 主査挨拶

濱田主査より挨拶. 今年度は, 小委員会の連携を強化すること, 音環境規準を制定することを課題とする.

F. 審議事項

1. 前回議事録確認 (資料 No. 1-0)

承認された.

2. 音環境運営委員会 開催日程

環境工学本委員会に続いて開催する. ただし, 今年度は環境工学本委員会が年間 4 回なので, 運営委員会は 7 月にも開催し, 昨年度と同様, 年間 5 回開催とする.

第 1 回 : 5 月 26 日 (金) 17 時～

第 2 回 : 7 月 28 日 (木) 17 時～

第 3 回 : 9 月 22 日 (木) 17 時～ ※音響学会 3 日目なので, 次回, 再調整

第 4 回 : 11 月 8 日 (火) 17 時～

第 5 回 : 2 月 21 日 (火) 17 時～

3. 環境工学本委員会報告事項 (濱田主査)

(1) 2010 年度鹿島学術振興財団研究助成で, 環境分野から 1 件が採択された. 音環境は採択なし.

(2) 2012 年度建築学会大会は, 9 月 12 日～14 日に名古屋大学東山キャンパスで開催することが決定された.

(3) 能力開発支援事業委員会から, 2011 年度事業計画では講習会開催回数が激減しており, 収益悪化が懸念されているので, ぜひ講習会を企画して欲しいとの依頼があった.

(4) 東日本大震災調査復興支援本部を設置

・会長を本部長とする. 支援本部には情報コマンドポスト, 研究・提言部会, 復旧・復興支援部会をおき, 災害委員会が連携組織として加わる.

- ・環境工学委員会（常置調査研究委員会）は研究・提言部会に直結しており、音環境運営委員会として取りまとめた意見「環境工学委員会として復旧・復興のために何ができるか」を提出した。
- ・6月30日に緊急シンポジウム「東日本大震災に対して環境工学ができること 夏の電力需給逼迫への対応」を空気調和・衛生工学会と共催で開催する。多くの参加を願う。
- ・8月大会時には研究協議会が行われる予定で、第一次提言取りまとめを予定しており、ご協力願いたい。
- ・災害調査ガイドラインを改訂した。東北支部が調査団に対応できず調査を見送ってきたが、今後は、ガイドラインに従って登録した上で腕章を着用して調査を実施する。

#### (5) 2011年度日本建築学会大会（関東）

- ・環境工学の申込み題数は1,253題で前年比52題減。音は83題で同16題減。
- ・オーガナイズドセッション（集合住宅の遮音性能の測定方法・評価方法）投稿数6件、採択数6件。
- ・梗概の取り下げ申請が環境工学で6題。昨年、共著者が取り下げ申請を行って問題となり、取り下げ・取り消し・削除の手続きを明確化した。
- ・学会賞（論文）受賞者記念講演にて、石川孝重先生（日本女子大）が講演。
- ・大会会期中に会場内で委員会等の非公式行事を行う場合は7月8日までに所定の用紙で申込みを行う。
- ・被災地域における研究者の発表機会を保全するため特別措置を講じることを決定した。周知されたい。
- ・環境工学懇親会を六本木ヒルズクラブ森タワー51階で開催。8月24日。

(6) 予算消化について、過去5年間の平均消化率（環境工学）は73.10%であり、70%を下回らないよう、きちんと消化されたい。

#### 4. 環境工学本委員会審議事項（濱田主査）

- (1) 環境工学委員会の震災対応として、本委員会直下に住宅・建築環境WG、都市環境WGを設置した。委員数に若干、余裕があり、積極的に参加されたい。光環境運営委員会からも震災対応WG設置申請があった。音環境運営委員会でも調査が必要であれば、WG設置申請されたい。
- (2) 刊行計画書「音環境の数値シミュレーションー波動音響解析の技法と応用ー」、「日本建築学会環境基準 都市・建築空間における音声伝送性能評価基準・同解説」が承認された。
- (3) 非会員への委員の委嘱について、学会定款2条に「委員は会員をもって構成する」とあり、学術委員長はこれを厳密に運用する方針で、委嘱理由が適切でない場合には修正を要請する。
- (4) 環境工学研究者名簿の改訂にご協力いただきたい。
- (5) 環境工学本委員会メールマガジン運用ルールを改正した。配信内容は、催し物、公募、連絡事項の案内に限定する。催し物の案内には、必ず正式案内が掲載されているURLを明記すること。各月10日を配信日としており、余裕をもって申し込みされたい。ただし緊急の場合、3日以内の対応も可能である。
- (6) 今年度のプログラム編成委員旅費について、環境工学は253円/題（33万円）、構造は38円/題であった。委員選定にあたって旅費削減にご配慮願いたい。
- (7) 環境工学本委員会資料の閲覧が可能となる。URLは後日公開される。
- (8) 論文集委員について、今年度に限り1名を増員したが、来年度以降の委員数は本年度の審議による。
- (9) 本年度の研究懇談会「環境工学研究の最前線と分野連携ー自然・生態環境と人工環境の融和に向けてー」は、濱田主査が各小委員会（音環境）の意見を取りまとめて発表する。今後、音環境運営委員会としてテーマを具体化する必要があり、各小委員会の主査には是非、ご協力願いたい。
- (10) 各委員会の予算執行状況（消化率）が更新されているので、予算消化の際、参考とされたい。

## 5. 小委員会・WG 活動報告

### 固体音小委員会（中澤主査）

3月15日の委員会が震災の影響で延期され、5月25日に第1回を開催し、春季騒音制御工学会原稿、OS（オーガナイズドセッション）原稿の説明、および、音環境規準の検討事項に関する意見交換を行った。

次回は6月24日に開催予定。

A 特性床衝撃音レベルの測定・評価方法について、各委員で次回までに、A 特性音圧レベルを直接測定する方法とバンド音圧レベルから算定する方法の対応を調べておく。

鉄道固体音 WG 第1回を5月20日に開催し、今年度の活動計画について審議した。

### 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会（岩本主査）

濱田主査から引継ぎを行った。

5月20日に小委員会を開催した。

今年度は、住戸室内における発生音、およびその許容値について、実物件での調査、事例調査、文献調査によって検討を進める。また、できれば中小、個人の案件も含めて検討する。

### 建築音響測定法小委員会（宮島主査）

3月16日の委員会が震災の影響で延期され、5月27日に第1回を開催し、遮音性能の評価における音環境規準に関する課題を審議した。

非公開 WG を5月23日に開催し、フランキングに関する議論を行った。

### 室内音響小委員会（羽入主査）

第69回音シンポジウム「音を巡る空間設計の可能性ー音楽ホールだけではない音響設計」を5月13日に開催し、161名が参加した。設計・計画系の参加者も多く来場した。（佐久間先生が代理で報告）

### 音響数値解析小委員会（坂本主査）

佐久間主査から引継ぎを行った。

3月18日開催予定だった第68回音シンポジウム「音響設計実務と数値解析モデリング」を5月20日に延期して開催し、定員40名に対して71名の参加があった。

2000年に建築学会から波動数値解析に関する書籍を刊行してから10年を経て、安田先生が幹事を務め、2年間をかけて今年4月に「音環境の数値シミュレーションー波動音響解析の技法と応用ー」が完成し、今年9月頃に刊行予定。波動音響解析の多くの手法の基本を網羅しており、また応用事例も豊富に掲載されている。全300ページ。是非、広く宣伝して頂きたい。

### 音環境規準検討小委員会（平松主査）

3月4日に規準・設計指針の合同 WG、4月15日に音環境規準小委員会を開催し、執筆者から提出された目次案、および構成案のクロスチェック結果を周知した。

4月4日、5月19日に安岡先生のご意見を伺い、さらに6月10日に安岡先生、井上先生と打合せ予定。

## 6. 他学会からの報告

### 日本音響学会 建築音響研究会

6月21日 別府国際コンベンションセンター B-ConPlaza

7月15日 キャンパスポート大阪（共催：電気音響研究会、電子情報通信学会応用音響研究会）

### 日本音響学会 騒音・振動研究会

6月10日 小林理学研究所

7月15日 エル・おおさか

## 7. その他

峯村さんを運営委員に追加

関西・九州支部の委員追加を検討

## 8. 次回の予定

7月28日（木）17時～ 建築学会会議室